

第 1 回審議会でもいただいたご意見について

【審議会の進め方について】

テーマ	内容	関連領域
<p>答申に向けた審議会の進め方</p>	<p>「人権を尊重する地域社会とは」「固定的な性別による役割分担意識と男女平等の課題」「多様性の受容と共生社会」「困難を抱える人々へのジェンダー平等の視点」の3つのテーマを、一旦柱にしつつ、先を見据えたアウトプットにできるといいと考える。（櫻井委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終的にまとめる際に、もう少し先の未来を考えたテーマに表現を変える。（櫻井委員） ・「固定的な性別役割分担意識」のような従前からあるテーマの表現をもう少しブラッシュアップする。（櫻井委員） ・現行の区の男女共同参画行動計画の内容をもっと踏み込んで検討し、そこにある課題も審議の俎上にあげて、もう少し先を見据えた、尖ったアウトプットにできるといいのでは。（櫻井委員） <p>「ジェンダー平等とは何なのか」「多様性とは何なのか」このような認識の共有が必要。理念だけの話をして行くとふわふわした議論で終わってしまう。（高見副会長）</p> <p>諮問は「課題」「未来像」「その手段や方向（方策）」。それに対して、何が課題なのか、根本的な課題は何なのか、何を变えていくのが大事なのか、を整理する必要がある。（村松会長）</p> <p>様々な課題を整理し、構造化する必要があるのでは。課題を整理して、全体像を見とって、その先にある未来像を考える議論をする。方策はまた別なので、方策だけの議論をする、テーマではなく形式、フォームから入っていく、というやり方もあり得るのではないかと。（村松会長）</p> <p>ジェンダー平等に関する委員の考え方を揃えていく作業がまず必要ではないかと。（櫻井委員）</p> <p>審議会の進め方として、課題から入っていくのではなく「ジェンダー平等の未来」「ジェンダー平等が実現した杉並区」「それぞれの課題がどうなるといいか」という未来像、「ありたい姿」から考えるのはどうか。「ありたい姿」を考えて、「今の現状」を考えて、その「差分」から事業を考える、というやり方はどうか（櫻井委員）</p>	

	<p>審議会の委員に、区の職員も加わって「杉並区のジェンダー平等のありたい姿」を一緒に考え、そこから「現状」「何が必要か」まで考える、ワークショップ形式の取組はどうか。 (櫻井委員)</p> <p>櫻井委員の意見に賛同。ジェンダー平等に関する施策を推進する、区役所の全ての職員や、関心がある職員が参加できる環境があると、今後の施策を進めるための当事者意識がより高まるのではないか。 (三戸委員)</p>	
--	---	--

【審議会を進める前提の部分の整理について】

テーマ	内容	関連領域
区のジェンダー平等の捉え方の課題	<p>この審議会では、ジェンダーというものをもっと広く捉えて審議したらいいと思う。(横山委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダー平等をどう捉えるか ・男女平等ではなくジェンダー平等ということはどういうことか、様々な解釈があり得る ・(区の男女共同参画行動計画では)女性の課題が前面に出ていることで、「多様なジェンダー」があり得ることを想定しなければいけない。大きなテーマと考える。 <p>(村松会長)</p> <p>ジェンダー平等とはどういうことか、というところで分かるようで分からないところがある。区の考えを知りたい。(高見副会長)</p>	
諮問文に込められた区の考えについて	<p>諮問文の「杉並区における男女共同参画の取組をジェンダー平等の視点から発展される」という言葉を通じて、区が何を目指そうとしているか。男女じゃなくて性の多様性を組み込む、ということとも違うように考える。(高見副会長)</p>	
若い世代の意識の捉え方	<p>区の「男女共同に関する意識と生活実態調査」(以下「実態調査」)が18歳以上を対象としており、50歳以上が6割。回答者の年齢層が高いことで、固定的性別役割分担意識、結婚に対する意識、ワーク・ライフ・バランスなどの考え方にズレがあると思われる。若い世代への意識調査や意見集約の場を設けることの必要性がある。</p> <p>子ども家庭庁の資料なども共有していきたい。(櫻井委員)</p>	
区の男女共同参画行動計画の課題	<p>(区の男女共同参画行動計画では)「ジェンダー平等の視点を重視して再構築されている」とあるが、女性に対する差別に焦点が当たっている内容が多く、これはジェンダー平等ではなく男女共同参画の視点の方が大きいのではないか。この審議会では、ジェンダーというものをもっと広く捉えて審議したらいいと思う。(横山委員)</p> <p>区の男女共同参画行動計画は、あまり踏み込んだ内容が書かれていないと感じる。(櫻井委員)</p>	

	<p>区の男女共同参画行動計画そのものをどのようにしていくか、どうい う作り方をして行くか、という意見がこの審議会でも出ることあり得 ると考える。 (村松会長)</p>	
--	--	--

<p>区が捉える課題</p>	<p>諮問の「今後の課題」「目指すべき未来像・どう実現していくかの方 策」を決めていくこの審議会において、区の課題感について随時話題 提供があればいいと考える。 (三戸委員)</p> <p>区の男女共同参画に関する取組の進め方は、以下と見る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>行動計画を推進する ↓ (定期的に) 実態調査を行って、まだ問題があるから改善する</p> </div> <p>しかし、実態調査の内容からは、課題について深められていない。 固定的な性別役割分担意識についても、これまでの調査からみれば減 少してきており、今後の目標が「さらに減らしていくことなのか」 「そこにある社会規範に問題意識があるのか」が見えづらい。社会規 範を問題にするのであれば、どの部分が問題なのかをより明確にして 共有できれば、議論を進めやすい。 (高見副会長)</p>	
----------------	--	--

<p>審議会における調 査（「意識と生活 実態調査」を含ん で）の活用</p>	<p>今後出していく答申の中で「（ジェンダー平等に関する）調査はどの ようにあるべき」「どのように調査を行っていくべき」という議論も あるのではないかと。 (村松会長)</p>	
---	--	--

【審議する個別のテーマについて】

○「人権を尊重する地域社会」に関連するもの

テーマ	内容	関連領域
シングルマザー 支援	シングルマザーが抱える問題： DVからの避難、離婚、子どもの養育、暴力、自責感、労働環境、家事・育児負担、生活環境 (藤岡委員)	○人権 ○男女平等 ○固定的性別 役割分担 ○雇用・労働 ○困難
困難を抱えている 人たちへの考え方	行政の取組の課題： シングルマザーの実情把握、相談業務運営、民間との連携 (村松会長)	○人権 ○男女平等 ○困難 ○区の取組
ジェンダー平等に 関する区民の意識	実態調査の問7-2「職場での男女差別の有無」の結果として最も多い回答が「男女差別と感じられることはない」57.7%。 杉並区民のジェンダー平等に関する意識が進んでいるか、そうでなければジェンダー不平等が当たり前になりすぎていて、不平等や差別に対する意識が浸透していないのではないか。この点を審議会でも議論したい。 (櫻井委員)	○人権 ○男女平等 ○地域社会
DVへの問題意識	実態調査の問4-6「DV経験の有無」「DVの認識」「DV相談の有無」「DV相談の相手」「DV相談をしなかった理由」に注目。「DV経験の有無」が4割。 ・DV経験のある人が思ったより多い。 ・SRHRの視点からの若い世代のDVに対する知識不足の問題 ・行政に相談することへの心理的障壁の問題 ・「相談しやすい」DV相談のあり方の問題 (櫻井委員)	○人権 ○困難 ○区の取組
教育の場における ジェンダー平等の 推進	実態調査の問18「男女平等の意識」に注目。(この結果は年代別ではないが) ・年代によって、いろいろ考えたり、施策を考えていく必要がある。 ・「④学校教育の現場で」において、教育現場は男女平等ではないと考えている。「女子の進学」「男女分け」「男女に当てはまらない人がより苦しい思いをする」というような「隠れたカリキュラム」の問題がある。男女平等だと思われている、という考えがあることから、以下のようなことが重要と考える。 ・教育現場における固定的性別役割分担意識解消の問題	○人権 ○男女平等 ○多様性 ○教育 ○若年層

	<p>・若い世代に対する固定的性別役割分担意識解消の問題</p> <p>実態調査の間19「学校教育の場で特に力を入れた方が良いこと」にあるように</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導や生活指導において、男女関係なく能力を活かせるようにしていくこと ・学校生活で児童・生徒の役割分担は男女に差をつけないこと ・ジェンダー平等の意識を育てる授業をすること ・管理職の校長・副校長が女性であることで、良いロールモデルとなること <p>教育の場でどのようにジェンダー平等を推進していくのかをこの審議会で議論したい。 (櫻井委員)</p> <p>教育とジェンダーの問題、教育の場における男女平等の問題は非常に重要。</p> <p>学校における「隠れたカリキュラム」について自体で調べて欲しいこともある。それに関して調査をしたらどうかという話が出ること、(そこから見出された)課題を検討して欲しい、という提言もできるかもしれないので、重要と考える。 (村松会長)</p>	
<p>男女平等推進センターが果たすべき役割</p>	<p>実態調査の間24「男女平等推進センターの認知度」に注目。横浜市の男女共同参画センターの機能強化の委員を務めているが、男女共同参画に関する行政施設の認知度の低さはどこの自治体でも課題となっている。ジェンダーに関心がある若い世代を集めたジェンカレというプログラムを行っているが、そこでも施設のことを知る人が少ない。知ってもらえれば(地域のジェンダー平等に対する)ポテンシャルも高まると思われるので、審議会のテーマとしても(男女平等推進センターの役割など)重要になってくるのではないかと。(櫻井委員)</p> <p>杉並区の男女平等推進センターの問題は最終的に盛り込まなければいけない課題と思う。(村松会長)</p> <p>杉並女性連絡会では、男女平等推進センターで図書整理や読書会、講演会などを行っているが、施設の1階にある青少年センターの図書コーナーに(ジェンダー平等に関する書籍などを)展示するなどの取組を行っている。また、性的マイノリティの参加グループが、自由に話ができる場所を定期的に設けている。(岩橋委員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○人権 ○男女平等 ○多様性 ○困難 ○地域社会 ○若年層
<p>ケアの現場におけるカスタマーセク</p>	<p>ケアをされている患者や介護されている人から、看護・介護する人、つまり顧客から労働者へのセクシャルハラスメントに注目している。(ケアの現場の課題として)考えていきたい。(山田委員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○人権

シャルハラスメントの課題		
弱者女性が抱える困難の課題	いわゆる接客を伴った飲食業に従事する女性たちは「低賃金」「子どもの養育」「職業スキルの不足」など（困難を抱えており）、人権が侵害されていると考えている。そういう人たちを見捨てない政策が必要と考えている。 (山田委員)	○人権 ○困難

○固定的な性別による役割分担意識と男女平等の課題

テーマ	内容	関連領域
シングルマザー支援	シングルマザーが抱える問題： DVからの避難、離婚、子どもの養育、暴力、自責感、労働環境、家事・育児負担、生活環境 (藤岡委員)	○人権 ○男女平等 ○固定的性別役割分担 ○雇用・労働 ○困難
困難を抱えている人たちへの考え方	行政の取組の課題： シングルマザーの実情把握、相談業務運営、民間との連携 (村松会長)	○人権 ○男女平等 ○困難 ○区の取組
若い世代の意識の捉え方	区の「男女共同に関する意識と生活実態調査」(以下「実態調査」)が18歳以上を対象としており、50歳以上が6割。回答者の年齢層が高いことで、固定的性別役割分担意識、結婚に対する意識、ワーク・ライフ・バランスなどの考え方にズレがあると思われる。若い世代への意識調査や意見集約の場を設けることの必要性がある。 子ども家庭庁の資料なども共有していきたい。 (櫻井委員)	○男女平等 ○固定的性別役割分担 ○雇用・労働 ○地域社会
ジェンダー平等に関する区民の意識	実態調査の問7-2「職場での男女差別の有無」の結果として最も多い回答が「男女差別と感じられることはない」57.7%。 杉並区民のジェンダー平等に関する意識が進んでいるか、そうでなければジェンダー不平等が当たり前になりすぎていて、不平等や差別に対する意識が浸透していないのではないかと。この点を審議会でも議論したい。 (櫻井委員)	○人権 ○男女平等 ○地域社会
教育の場におけるジェンダー平等の推進	実態調査の問18「男女平等の意識」に注目。(この結果は年代別ではないが) ・年代によって、いろいろ考えたり、施策を考えていく必要がある。 ・「④学校教育の現場で」において、教育現場は男女平等ではないと考えている。「女子の進学」「男女分け」「男女に当てはまらない人がより苦しい思いをする」というような「隠れたカリキュラム」の問題がある。男女平等だと思わされている、という考えがあることから、以下のようなことが重要と考える。 ・教育現場における固定的性別役割分担意識解消の問題 ・若い世代に対する固定的性別役割分担意識解消の問題	○人権 ○男女平等 ○多様性 ○教育 ○若年層

	<p>実態調査の問19「学校教育の場で特に力を入れた方が良いこと」にあるように</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導や生活指導において、男女関係なく能力を活かせるようにしていくこと ・学校生活で児童・生徒の役割分担は男女に差をつけないこと ・ジェンダー平等の意識を育てる授業をすること ・管理職の校長・副校長が女性であることで、良いロールモデルとなること <p>教育の場でどのようにジェンダー平等を推進していくのかをこの審議会で議論したい。</p> <p>(櫻井委員)</p> <p>教育とジェンダーの問題、教育の場における男女平等の問題は非常に重要。</p> <p>学校における「隠れたカリキュラム」について自体で調べて欲しいこともある。それに関して調査をしたらどうかという話が出ること、(そこから見出された)課題を検討して欲しい、という提言もできるかもしれないので、重要と考える。(村松会長)</p>	
<p>男女平等推進センターが果たすべき役割</p>	<p>実態調査の問24「男女平等推進センターの認知度」に注目。横浜市の男女共同参画センターの機能強化の委員を務めているが、男女共同参画に関する行政施設の認知度の低さはどこの自治体でも課題となっている。ジェンダーに関心がある若い世代を集めたジェンカレというプログラムを行っているが、そこでも施設のことを知る人が少ない。知ってもらえれば(地域のジェンダー平等に対する)ポテンシャルも高まると思われるので、審議会のテーマとしても(男女平等推進センターの役割など)重要になってくるのではないかと。(櫻井委員)</p> <p>杉並区の男女平等推進センターの問題は最終的に盛り込まなければいけない課題と思う。(村松会長)</p> <p>杉並女性連絡会では、男女平等推進センターで図書の整理や読書会、講演会などを行っているが、施設の1階にある青少年センターの図書コーナーに(ジェンダー平等に関する書籍などを)展示するなどの取組を行っている。また、性的マイノリティの参加グループが、自由に話ができる場所を定期的に設けている。(岩橋委員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○人権 ○男女平等 ○多様性 ○困難 ○地域社会 ○若年層
<p>区民と地域社会の関わりのあるあり方</p>	<p>「地域の女性差別的な慣習」に注目している。杉並区25～29歳の人口がその前後の世代に対して多いのは、男女差別を嫌って地方から出てきた若い女性を吸収しているのではないかと。その理由は、地方で</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○男女平等

	<p>も都会でも男女差別が大きい伝統的地域組織はあるが、東京では地域に関わらなくても生活に支障がないからではないか。男性も含めて、地域に住む人たちを地域に引き込もうとすると、男女差別が嫌で関わりたくない、となるとすると、ここに区民と地域社会の関わりに対する問題意識を持つ必要があるのではと考える。 (山田委員)</p> <ul style="list-style-type: none">・女性が地方から東京に集まるという全国的な問題がある。その受け皿として東京にはどのような問題があるかという課題がある。・東京という都会の魅力が「地域に関わらなくて良い」というところにあるのではないかという指摘は、山田委員らしい指摘と考える。	
--	---	--

(村松会長)

○多様性の受容と共生社会

テーマ	内容	関連領域
<p>教育の場におけるジェンダー平等の推進</p>	<p>実態調査の問18「男女平等の意識」に注目。（この結果は年代別ではないが）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年代によって、いろいろ考えたり、施策を考えていく必要がある。 ・「④学校教育の現場で」において、教育現場は男女平等ではないと考えている。「女子の進学」「男女分け」「男女に当てはまらない人がより苦しい思いをする」というような「隠れたカリキュラム」の問題がある。男女平等だと思われている、という考えがあることから、以下のようなことが重要と考える。 ・教育現場における固定的性別役割分担意識解消の問題 ・若い世代に対する固定的性別役割分担意識解消の問題 <p>実態調査の問19「学校教育の場で特に力を入れた方が良いこと」にあるように</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導や生活指導において、男女関係なく能力を活かせるようにしていくこと ・学校生活で児童・生徒の役割分担は男女に差をつけないこと ・ジェンダー平等の意識を育てる授業をすること ・管理職の校長・副校長が女性であることで、良いロールモデルとなること <p>教育の場でどのようにジェンダー平等を推進していくのかをこの審議会で議論したい。 (櫻井委員)</p> <p>教育とジェンダーの問題、教育の場における男女平等の問題は非常に重要。学校における「隠れたカリキュラム」について自体で調べて欲しいこともある。それに関して調査をしたらどうかという話が出ること、（そこから見出された）課題を検討して欲しい、という提言もできるかもしれないので、重要と考える。 (村松会長)</p>	<p>○人権 ○男女平等 ○多様性 ○教育 ○若年層</p>
<p>男女平等推進センターが果たすべき役割</p>	<p>実態調査の問24「男女平等推進センターの認知度」に注目。横浜市の男女共同参画センターの機能強化の委員を務めているが、男女共同参画に関する行政施設の認知度の低さはどこの自治体でも課題となっている。ジェンダーに関心がある若い世代を集めたジェンカレというプログラムを行っているが、そこでも施設のことを知る人が少ない。知ってもらえれば（地域のジェンダー平等に対する）ポテンシャルも高まると思われるので、審議会のテーマとしても（男女平等推進センターの役割など）重要になってくるのではないかと。 (櫻井委員)</p>	<p>○人権 ○男女平等 ○多様性 ○困難 ○地域社会 ○若年層</p>

	<p>杉並区の男女平等推進センターの問題は最終的に盛り込まなければいけない課題と思う。 (村松会長)</p> <p>杉並女性連絡会では、男女平等推進センターで図書の整理や読書会、講演会などを行っているが、施設の1階にある青少年センターの図書コーナーに（ジェンダー平等に関する書籍などを）展示するなどの取組を行っている。また、性的マイノリティの参加グループが、自由に話ができる場所を定期的に設けている。 (岩橋委員)</p>	
--	---	--

○困難を抱える人々へのジェンダー平等の視点

テーマ	内容	関連領域
シングルマザー支援	<p>シングルマザーが抱える問題： DVからの避難、離婚、子どもの養育、暴力、自責感、労働環境、家事・育児負担、生活環境 (藤岡委員)</p>	<p>○人権 ○男女平等 ○固定的性別役割分担 ○雇用・労働 ○困難</p>
困難を抱えている人たちへの考え方	<p>行政の取組の課題： シングルマザーの実情把握、相談業務運営、民間との連携 (村松会長)</p>	<p>○人権 ○男女平等 ○困難 ○区の取組</p>
DVへの問題意識	<p>実態調査の問4-6「DV経験の有無」「DVの認識」「DV相談の有無」「DV相談の相手」「DV相談をしなかった理由」に注目。「DV経験の有無」が4割。 ・DV経験のある人が思ったより多い。 ・SRHRの視点からの若い世代のDVに対する知識不足の問題 ・行政に相談することへの心理的障壁の問題 ・「相談しやすい」DV相談のあり方の問題 (櫻井委員)</p>	<p>○人権 ○困難 ○区の取組</p>
男女平等推進センターが果たすべき役割	<p>実態調査の問24「男女平等推進センターの認知度」に注目。横浜市の男女共同参画センターの機能強化の委員を務めているが、男女共同参画に関する行政施設の認知度の低さはどこの自治体でも課題となっている。ジェンダーに関心がある若い世代を集めたジェンカレというプログラムを行っているが、そこでも施設のことを知る人が少ない。知ってもらえれば（地域のジェンダー平等に対する）ポテンシャルも高まると思われるので、審議会のテーマとしても（男女平等推進センターの役割など）重要になってくるのではないかと。（櫻井委員） 杉並区の男女平等推進センターの問題は最終的に盛り込まなければいけない課題と思う。（村松会長） 杉並女性連絡会では、男女平等推進センターで図書の整理や読書会、講演会などを行っているが、施設の1階にある青少年センターの図書コーナーに（ジェンダー平等に関する書籍などを）展示するなどの取組を行っている。また、性的マイノリティの参加グループが、自由に話ができる場所を定期的に設けている。（岩橋委員）</p>	<p>○人権 ○男女平等 ○多様性 ○困難 ○地域社会 ○若年層</p>

弱者女性が抱える 困難の課題	いわゆる接客を伴った飲食業に従事する女性たちは「低賃金」「子どもの養育」「職業スキルの不足」など（困難を抱えており）、人権が侵害されていると考えている。そういう人たちを見捨てない政策が必要と考えている。 (山田委員)	○人権 ○困難
-------------------	---	------------

★雇用・労働

テーマ	内容	関連領域
シングルマザー支援	シングルマザーが抱える問題： DVからの避難、離婚、子どもの養育、暴力、自責感、労働環境、家事・育児負担、生活環境 (藤岡委員)	○人権 ○男女平等 ○固定的性別役割分担 ○雇用・労働 ○困難
若い世代の意識の捉え方	区の「男女共同に関する意識と生活実態調査」(以下「実態調査」)が18歳以上を対象としており、50歳以上が6割。回答者の年齢層が高いことで、固定的性別役割分担意識、結婚に対する意識、ワーク・ライフ・バランスなどの考え方にズレがあると思われる。若い世代への意識調査や意見集約の場を設けることの必要性がある。 子ども家庭庁の資料なども共有していきたい。(櫻井委員)	○男女平等 ○固定的性別役割分担 ○雇用・労働 ○地域社会

★教育

テーマ	内容	関連領域
教育の場におけるジェンダー平等の推進	実態調査の問18「男女平等の意識」に注目。(この結果は年代別ではないが) ・年代によって、いろいろ考えたり、施策を考えていく必要がある。 ・「④学校教育の現場で」において、教育現場は男女平等ではないと考えている。「女子の進学」「男女分け」「男女に当てはまらない人がより苦しい思いをする」というような「隠れたカリキュラム」の問題がある。男女平等だと思われている、という考えがあることから、以下のようなことが重要と考える。 ・教育現場における固定的性別役割分担意識解消の問題 ・若い世代に対する固定的性別役割分担意識解消の問題 実態調査の問19「学校教育の場で特に力を入れた方が良いこと」にあるように ・進路指導や生活指導において、男女関係なく能力を活かせるようにしていくこと ・学校生活で児童・生徒の役割分担は男女に差をつけないこと ・ジェンダー平等の意識を育てる授業をすること ・管理職の校長・副校長が女性であることで、良いロールモデルとなること	○人権 ○男女平等 ○多様性 ○教育 ○若年層

	<p>教育の場でどのようにジェンダー平等を推進していくのかをこの審議会 会で議論したい。 (櫻井委員)</p> <p>教育とジェンダーの問題、教育の場における男女平等の問題は非常に 重要。</p> <p>学校における「隠れたカリキュラム」について自体で調べて欲しいこ ともある。それに関して調査をしたらどうかという話が出ること、 (そこから見出された) 課題を検討して欲しい、という提言もできる かもしれないので、重要と考える。 (村松会長)</p>	
--	---	--

★若年層

テーマ	内容	関連領域
若い世代の意識の 捉え方	<p>区の「男女共同に関する意識と生活実態調査」(以下「実態調査」) が18歳以上を対象としており、50歳以上が6割。回答者の年齢層が 高いことで、固定的性別役割分担意識、結婚に対する意識、ワーク・ ライフ・バランスなどの考え方にズレがあると思われる。若い世代へ の意識調査や意見集約の場を設けることの必要性がある。 子ども家庭庁の資料なども共有していきたい。 (櫻井委員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○男女平等 ○固定的性別 役割分担 ○雇用・労働 ○地域社会 ○若年層
教育の場における ジェンダー平等の 推進	<p>実態調査の問18「男女平等の意識」に注目。(この結果は年代別で はないが)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年代によって、いろいろ考えたり、施策を考えていく必要がある。 ・「④学校教育の現場で」において、教育現場は男女平等ではないと 考えている。「女子の進学」「男女分け」「男女に当てはまらない人 がより苦しい思いをする」というような「隠れたカリキュラム」の問 題がある。男女平等だと思わされている、という考えがあることか ら、以下のようなことが重要と考える。 ・教育現場における固定的性別役割分担意識解消の問題 ・若い世代に対する固定的性別役割分担意識解消の問題 <p>実態調査の問19「学校教育の場で特に力を入れた方が良いこと」に あるように</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導や生活指導において、男女関係なく能力を活かせるように していくこと ・学校生活で児童・生徒の役割分担は男女に差をつけないこと ・ジェンダー平等の意識を育てる授業をすること ・管理職の校長・副校長が女性であることで、良いロールモデルとな ること 	<ul style="list-style-type: none"> ○人権 ○男女平等 ○多様性 ○教育 ○若年層

	<p>教育の場でどのようにジェンダー平等を推進していくのかをこの審議会で議論したい。 (櫻井委員)</p> <p>教育とジェンダーの問題、教育の場における男女平等の問題は非常に重要。</p> <p>学校における「隠れたカリキュラム」について自体で調べて欲しいこともある。それに関して調査をしたらどうかという話が出ること、(そこから見出された)課題を検討して欲しい、という提言もできるかもしれないので、重要と考える。 (村松会長)</p>	
<p>男女平等推進センターが果たすべき役割</p>	<p>実態調査の問24「男女平等推進センターの認知度」に注目。横浜市の男女共同参画センターの機能強化の委員を務めているが、男女共同参画に関する行政施設の認知度の低さはどこの自治体でも課題となっている。ジェンダーに関心がある若い世代を集めたジェンカレというプログラムを行っているが、そこでも施設のことを知る人が少ない。知ってもらえれば(地域のジェンダー平等に対する)ポテンシャルも高まると思われるので、審議会のテーマとしても(男女平等推進センターの役割など)重要になってくるのではないか。 (櫻井委員)</p> <p>杉並区の男女平等推進センターの問題は最終的に盛り込まなければいけない課題と思う。 (村松会長)</p> <p>杉並女性連絡会では、男女平等推進センターで図書の整理や読書会、講演会などを行っているが、施設の1階にある青少年センターの図書コーナーに(ジェンダー平等に関する書籍などを)展示するなどの取組を行っている。また、性的マイノリティの参加グループが、自由に話ができる場所を定期的に設けている。 (岩橋委員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○人権 ○男女平等 ○多様性 ○困難 ○地域社会 ○若年層

★区の実施

テーマ	内容	関連領域
<p>困難を抱えている人々への考え方</p>	<p>行政の実施の課題： シングルマザーの実情把握、相談業務運営、民間との連携 (村松会長)</p>	<p>○人権 ○男女平等 ○困難 ○区の実施</p>
<p>DV への問題意識</p>	<p>実態調査の問 4-6 「DV 経験の有無」「DV の認識」「DV 相談の有無」「DV 相談の相手」「DV 相談をしなかった理由」に注目。「DV 経験の有無」が 4 割。 ・ DV 経験のある人が思ったより多い。 ・ SRHR の視点からの若い世代の DV に対する知識不足の問題 ・ 行政に相談することへの心理的障壁の問題 ・ 「相談しやすい」 DV 相談のあり方の問題 (櫻井委員)</p>	<p>○人権 ○困難 ○区の実施</p>